スムーズな審査のために　構造編

設計図書

- 構造図面には事務所名、一級建築士登録番号、構造設計一級建築士番号（必要な場合）と設計者の氏名を明示して下さい。
- 構造図には図番を記載して下さい。
- 柱状図に基礎およびGL とKBM のレベル関係を記載して下さい。
- 構造計算書との整合性（部材断面、配筋本数等）は必ずチェックして下さい。
- 軸組図の耐震壁開口には位置寸法を入れて下さい。
- 支持地盤の土質名と許容支持力を明記して下さい。

構造安全証明書の写し

- 構造設計一級建築士の関与の対象となる建築物について、自らが構造設計を行った場合は、構造安全証明書の交付義務はありません。
- なお、関与の対象とならない建築物については、構造設計一級建築士が自ら構造設計を行っていても、構造安全証明書の交付が必要です。
- 記載事項は確認申請書の記載事項と整合させて下さい。
- 安全証明書の設計者による押印は任意です。

地盤調査書

- 地盤調査が出来ない場合は着工前までに調査を行い、必要地耐力が得られなかった場合は地盤改良等を行う旨を図面に明記して下さい。
- 地盤調査を行っているのであれば地盤調査報告書を添付して下さい。
- 液状化の検討及び判定をして、設計者としてのコメントを設計方針に記載して下さい。

- 構造計算書には、表紙及び目次を設けて下さい。
- 構造計算書には、ページを記載して下さい。
- 表紙には構造設計者の事務所名、一級建築士登録番号、構造一級建築士番号(必要な場合）を設計者の氏名を明示して下さい。
- 構造上の特徴、構造計算方針、適用する構造計算、使用プログラムの概要を詳しく明記して下さい。
- 電算出力結果のワーニング、エラー等に関する設計者の見解を記載して下さい。
- 認定プログラムを使用している場合「認定書」「チェックリスト」を添付して下さい。
- 最新の意匠図との整合性(スパン・階高・部材配置・壁位置等）の再確認を行って下さい。
- 認定品等を使用する場合は適用範囲の確認をして下さい。
- 柱、梁のかぶり厚については計算入力値と図面の記載値との整合性について十分留意して下さい。
- 計算入力時に使用材料と基準強度の確認をして下さい(木造)。
- 壁量検討の見付面積を明確にして下さい。特に見付幅については仕上の外面で計算をして下さい(木造)。